

Risk Flash No.199

(Vol.5No.41)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
 発行責任者：リスク研究センター長 久保英也
 〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1 TEL:0749-27-1404
 FAX:0749-27-1189 e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp
 Web page: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>

- 環境と地域活性化の視点: 水利権市場研究と資本主義研究の未来・・・Page 1
- 卒業生の視点: 半世紀前の就職活動・・・Page 2
- リスク研究センター通信・・・Page 2

環境と地域活性化の視点

水利権市場研究と資本主義研究の未来

経済学科教授 こんどう まなぶ 近藤 學

水利権市場の研究についてはさらなる進展が期待されます。水資源の希少性は増大しており、より低費用で効率的な水資源の管理が必要とされているからです。おそらく中国ではこうした動きが加速し、炭素市場の創設や国際リンクといった問題とも連動しながら市場的手法への関心が高まるでしょう。さらに、単に経済的効率の観点からのみでなく、地域活性化の手段として水市場を活用しようとする動きが出てくるでしょう。例えば水市場と関連するブローカーやインターネット・サービス、コンサルタントなどの職業の創設やオプション取引などの新たな取引商品の開発、水の節約に関連した技術開発の誘発などの形で地域経済への影響が起ころでしょう。また、地域間で水の売買により新たな資金循環を構築し、それを地域活性化に活用するといった動きも起きるでしょう。さらには水市場の国際的リンクも生じるかもしれません。日本でも、都市と農村の間での水取引や琵琶湖総合開発で失った琵琶湖の水利権を滋賀県が買戻し、湖岸堤を解体して自然を修復し、その生態系復元事業を公共事業として地域の中小企業に分割・受注させれば、地域活性化の手段となるでしょう。

このように地域活性化との関連で天然資源管理の領域に経済学的な手法を導入することへの関心は高まってくると思われまます。琵琶湖をもつ滋賀県に立地する滋賀大学でこうした水資源管理の研究が続くことを期待したいと思います。

他方で、資本主義の行方についても関心が広がっています。1929年の大恐慌は資本主義の社会主義的修正を強制し、ケインズ主義や国家の介入、混合経済を生み出しました。しかし1980年以降（また冷戦崩壊以降）、反ケインズ主義が喧伝され、反国有化、反計画化、反社会主義、反労働者階級の新自由主義改革が行われましたが、結局、金融不安定性を発症させ、世界中に財政赤字と格差と失業・貧困を蔓延させました。（世界の失業者は2億人を超えています）労使関係は流動化され、正規雇用は非正規雇用に置き換えられ、経済の長期停滞に陥りました。おまけに地球温暖化はますます加速し、地球の平均気温を2℃以内の上昇に抑えるためには2050年には対2010年比75-90%、2100年には100-120%ものCO2削減が必要とされています。

資本主義体制は帝国アメリカの衰退とともに歴史的役割を終えつつあるのではないのでしょうか。その兆候は既に存在しています。思いつくままを上げると、利潤セクターの縮小（非利潤セクターの増大）、高齢化社会の到来による資本-賃労働関係（資本主義的生産関係）の縮小、社会的企業や市民共同所有の増加、GDPに代わる新しい幸福指標の提案、有効需要の不足の一表現としての財政赤字の累積、租税負担比率の増大、国民の社会福祉要求の増大と利潤セクターとの社会的余剰の分配をめぐる対立の激化、原発依存からの脱却、地球環境リスクの増大、中国の台頭、集団的自衛権行使を口実とした帝国主義的戦争の危機、などです。

資本主義擁護の経済学はこうした歴史的課題を解決できるのか、が問われています。同様に、資本主義を批判する経済学も資本主義に代わるオルタナティブを提起することが求められています。そしてこうした課題に共に答えることが経済学一般の有効性を示すことにもなります。

これからの経済学は現実的であるとともに雄大な構想力を持って経済学研究を行ってゆく必要があるでしょう。理論的であるとともに実際の（有用）である必要があります。それは単独の研究では不可能でしょう。現代の課題に答える知的集団として滋賀大学の教員スタッフが相互に研鑽を深め、また世界とも連携し、世界へ発信し、人類や地域の未来を勇敢に切り開いてほしいと願うのみです。

卒業生の視点

半世紀前の就職活動

黒澤日出男(大学1 1 期卒)

1962年夏が私の就活シーズンでした。当時は、大学(学生課)から志望会社に推薦状を貰う形で同時に3社の推薦を受けられました。病気休学と優の数が少ない劣等生だった私は、有名企業を避け開設したばかりの東証二部上場の企業に的を絞ったのです。村田製作所・栗田工業・中埜酢店(現ミツカン:非上場)の3社に同時推薦を受け出願してました。

今でも思い出すのは、ミツカン社の志願書に「入社しましたら、ミツカン社を食品業界のサントリーに比す会社となるよう尽力したい」と記したことです。若者の意気だけは、盛んだったと云うことでしょう。

結局、上記3社の入社試験を受ける前に、外資日本オリベッテイの人事部長面接だけで入社決定してしまいました。(学生課で外資オリベッテイは別枠での受験を認められた)当時は、入社が決定すると出願していた会社受験を辞退する決まりでした。日本オリベッテイには、営業系の同期生は100名が入社し、早稲田20名・慶応18名・関学8名・同志社8名等私立大勢が圧倒的に多く、滋賀大・和歌山大・大阪市大・九州大・北大等国公立大勢は少数派でした。

ビジネス人生を終えて思うのは、若者には心意気が大事だということです。ビジネス社会で、困難に遭遇した際にも推進エネルギーとなるのは心意気でした。物事を成し遂げるのは、情熱と心意気です。冷静に分析・判断し、情熱をもって事に当たれば、道は開けます。

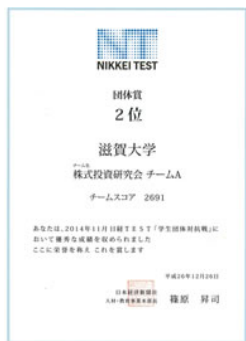
リスク研究センター通信

◇経済学部「株式投資研究会」が日経 TEST 学生団体対抗戦で全国2位に輝き、個人の部でも3位と4位に入賞

株式の勉強を通じて経済への理解を深め、社会で活躍出来る人材を育成することを目的に活動する経済学部の団体「株式投資研究会」のチームA(指導教員:二上季代司教授)が、2014年11月開催の日経 TEST 学生団体対抗戦に参加し、惜しくも団体三連覇はなりませんでした。東京大学を含む全国85団体中、堂々の団体賞2位を受賞しました。

個人の部においても、山口正倫が全国3位(前回2位)、丹羽伸茂が同4位(前回8位)に入賞し、日頃の成果を発揮しました。

なお、下回生参加のチームBは惜しくも11位となりましたが、今後の活躍が期待されます。



学生団体対抗戦の表彰状

「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変してblog等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。
- *尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

☛ <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2/3:12>)

*当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
編集委員：ロバート・アスピノール、大村啓喬、
菊池健太郎、金秉基、久保英也、
柴田淳郎、得田雅章、山田和代

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局
(Office Hours:月-金 10:00-17:00)
〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1
TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189
e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp